

令和5年9月28日
西日本高速道路株式会社

E2 山陽自動車道 尼子山トンネル火災事故技術検討会 ～第2回技術検討会の結果について～

E2 山陽自動車道(E2 山陽道)は、^{あまこやま}尼子山トンネル(下り線)火災の影響により、9月5日から^{はりま}播磨ジャンクション(JCT)～^{あこ}赤穂インターチェンジ(IC)間の下り線で通行止めとなっています。

現在、被災状況把握のための調査を進めていますが、火災の影響によるトンネルの損傷が甚大であり、通行再開には相当の期間を要する見込みです。

安全性の確認や復旧方法の検討のため、西日本高速道路株式会社は、学識者による「山陽自動車道 尼子山トンネル火災事故技術検討会」を立ち上げ、検討を行っているところです。

本日開催した第2回技術検討会の結果について、以下のとおり、お知らせいたします。なお、第3回技術検討会を10月中旬に予定しています。

詳細な復旧計画がまとめ次第、復旧完了時期の見込みを公表する予定です。

1. 日 時 令和5年9月28日(木) 14:00～16:35
2. 場 所 新大阪ワシントンホテルプラザ 会議室 紅梅
大阪府大阪市淀川区西中島5-5-15
3. 結果概要 別紙1のとおり
4. 委 員 別紙2のとおり
5. そ の 他 本技術検討会の開催履歴及びう回情報等は下記サイトにてとりまとめております。
https://www.w-nexco.co.jp/sanyo_fire_closure/

山陽自動車道 尼子山トンネル火災事故技術検討会

第 2 回技術検討会の結果概要

1. 被災概要

○トンネル^{ふっこう}覆工の損傷が大きい箇所^{かがい}の調査結果（※）から、火害により^{ふっこう}覆工コンクリートが部分的に強度低下等^{ぜいじゃく}脆弱化していることを確認。

※参考資料として、これまでの調査内容の一部を次頁に示す。

2. 審議内容

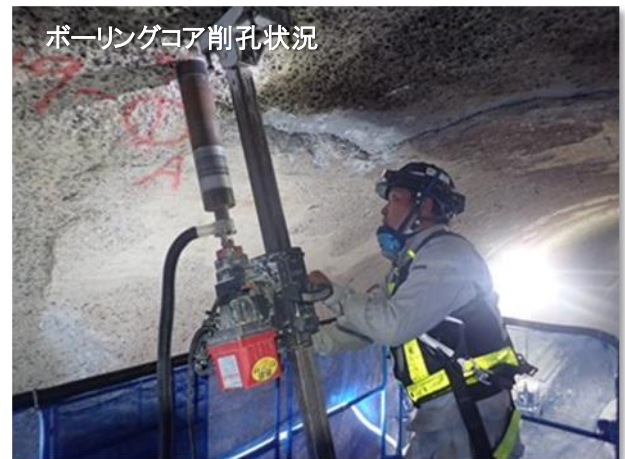
○トンネル^{ふっこう}覆工の損傷状況に応じた復旧方針を審議し、^{ふっこう}覆工コンクリート表面からの影響が深い箇所は^{うちまき}内巻補強工、浅い箇所は内面補強工を標準的な補修方法（※）とし、早急に着手していくことを確認。

※参考資料として、標準的な補修工法の概略図を次頁に示す。

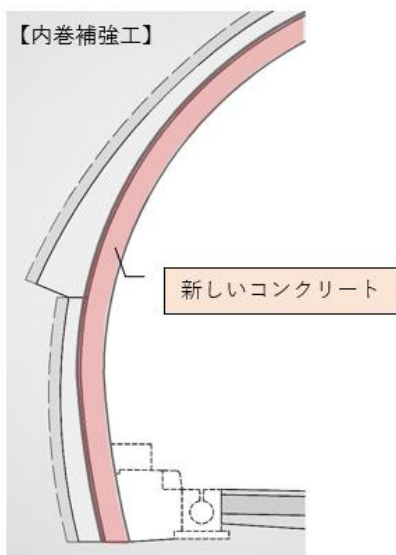
3. 今後の予定

○トンネル^{ふっこう}覆工に関する調査は継続中であり、第 3 回検討会にて調査結果の追加報告及び詳細な復旧計画に基づく作業状況の確認等を行う。

《これまでの調査内容》



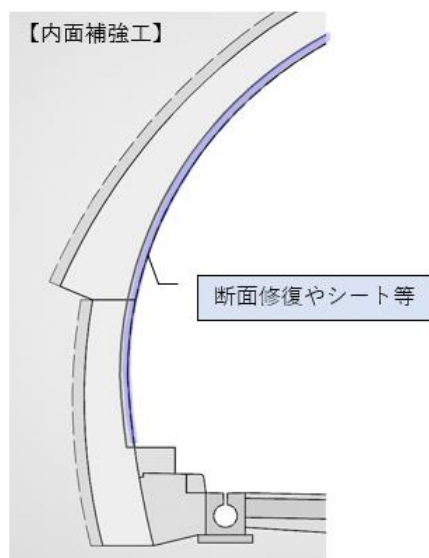
《標準的な補修工法の概略図》



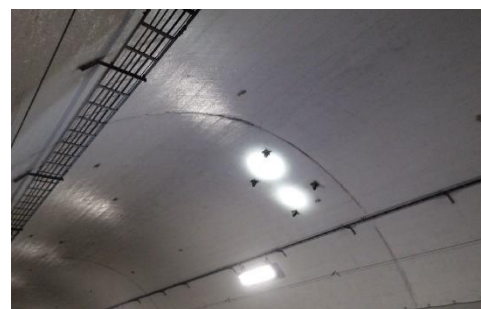
■ 覆工コンクリート表面からの影響が深い箇所
損傷したコンクリートを除去し、新しいコンクリートを打設



※写真は他工事での事例



■ 覆工コンクリート表面からの影響が浅い箇所
損傷コンクリートを部分的に除去し、断面修復やシート等を用いて補修



※写真は他工事での事例

山陽自動車道 ^{あまこやま} 尼子山トンネル火災事故技術検討会 委員名簿

あくとがわ しんいち
芥川 真一 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 教授

いさご のぶはる
○砂金 伸治 東京都立大学都市環境学部 都市基盤環境学科 教授

おおやま おきむ
大山 理 大阪工業大学工学部都市デザイン工学科 教授

きしだ きよし
岸田 潔 京都大学大学院工学研究科 都市社会工学専攻都市基盤システム工学専攻 教授

くさか あつし
日下 敦 国立研究開発法人土木研究所 上席研究員

なかの きよと
中野 清人 株式会社高速道路総合技術研究所 道路研究部 トンネル担当部長

にしだ ひであき
西田 秀明 国土交通省国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 構造・基礎研究室 室長

やまざき てつや
山崎 哲也 株式会社高速道路総合技術研究所 道路研究部 トンネル研究室 室長

(○は委員長)

(50音順、敬称略)